

2018

学園案内 | School Brochure



Meikei
High School

Meikei—

Making

the

茗溪学園中学校高等学校

国際バカロレア・ディプロマプログラム認定校
スーパーサイエンスハイスクール指定校
スーパーグローバルハイスクール・アソシエイト指定校



Difference

茗溪で学ぶこと。身につくこと。

「人類ならびに国家に貢献しうる『世界的日本人』を育成すべく、
知・徳・体の調和した人格の形成を図り、特に創造的思考力に富む人材をつくる」
茗溪学園での教育活動は、すべてこの「建学の理念」に沿って行われています。
自分が本当にやりたいことを見つけて、追求し、
知的で、たくましく、創造性に満ちた人物となって、世界を舞台に伸び伸びと活躍する、
そのための基礎をつくるための学習の場、それが茗溪学園です。

茗溪学園は今年度から国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) の
認定校となっています。

右に挙げた10の項目は「IBの学習者像」として掲げられているものですが、
これらの姿勢は、上で述べた茗溪学園の「建学の理念」とぴったり重なります。

茗溪で過ごす6年間はこの10の学習姿勢を身につけ、
将来の夢を実現するための基盤を築くための期間だと言えます。

茗溪の授業に他の学校とは異なるユニークな形態の多いのは、
この目的を何よりも優先しているからにほかなりません。

よい大学や会社に入るためだけではない。

自分が本当にやりたいことを見つけ、将来大きな舞台で思いきり活躍するための
基礎となる大切なことを、とことん学び、身につける。

それが、茗溪学園の6年間です。

● **Inquirers** | 探究する

● **Knowledgeable** | 知識を身につける

● **Thinkers** | 考える

● **Communicators** | 伝えあう

● **Principled** | 信念をもつ

● **Open-minded** | 心を開く

● **Caring** | 思いやる

● **Risk-takers** | 挑戦する

● **Balanced** | バランスをとる

● **Reflective** | 振り返る

Meikei— Making the Difference



Inquirers

探究する

茗溪学園の生徒は、つねに好奇心をもち、探究と調査のための技術を身につけて、自主的に学ぶことができます。学ぶことを積極的に楽しみ、その姿勢を生涯もち続けることができます。

Knowledgeable

知識を身につける

茗溪学園の生徒は、地域社会や国際社会での重要な問題や課題について、つねに考えをめぐらせ、かたよりのない幅広い分野の知識と深い理解を身につけていきます。

Thinkers

考える

茗溪学園の生徒は、複雑な問題にきちんと取り組むために、批判的に考えたり、創造的に考えたりしながら、理性的で倫理的な判断を導き出すことができます。





Communicators

伝え合う

茗溪学園の生徒は、複数の言語やコミュニケーションの手段を用いて、自分自身の考えを自信をもって創造的に表現し、周囲の人たちと進んで協力し合うことができます。



Principled

信念をもつ

茗溪学園の生徒は、誠実かつ正直であり、公正な考えと正義感をもって行動します。周囲の人々や地域社会を尊重して行動することができ、自分の行動とその結果に責任をもつことができます。



Open-minded

心を開く

茗溪学園の生徒は、他の人々や地域社会がもつ伝統、価値観、考え方に対して心を開くことができます。さまざまな意見に耳をかたむけ、内容を判断しながら成長していきます。

Caring

思いやる

茗溪学園の生徒は、ほかの人の気持ちや必要としていることに思いを寄せ、共感し、尊重することができます。周囲の人々の生活や環境をよくするために、個人として積極的にかわり、力を尽くします。



Risk-takers

挑戦する

茗溪学園の生徒は、不慣れな状況や不確実なことに、勇気と思慮をもって臨みます。新たな考えや役割、方法を試そうとする自立した精神をもち、勇気をもって自分の信念を貫きとおすことができます。

Balanced

バランスをとる

茗溪学園の生徒は、自分や周囲の人々が幸せであるためには、知性、身体、心のバランスが大切であることを理解しています。

The image shows two young women in school uniforms sitting at a desk in a computer lab. They are both looking intently at a large computer monitor. The student on the left is pointing at the screen with her right hand. The student on the right is leaning in slightly, also focused on the display. The monitor is a black iiyama model. In the background, other computer monitors and a blue office chair are visible, suggesting a typical classroom or computer lab environment.

Reflective

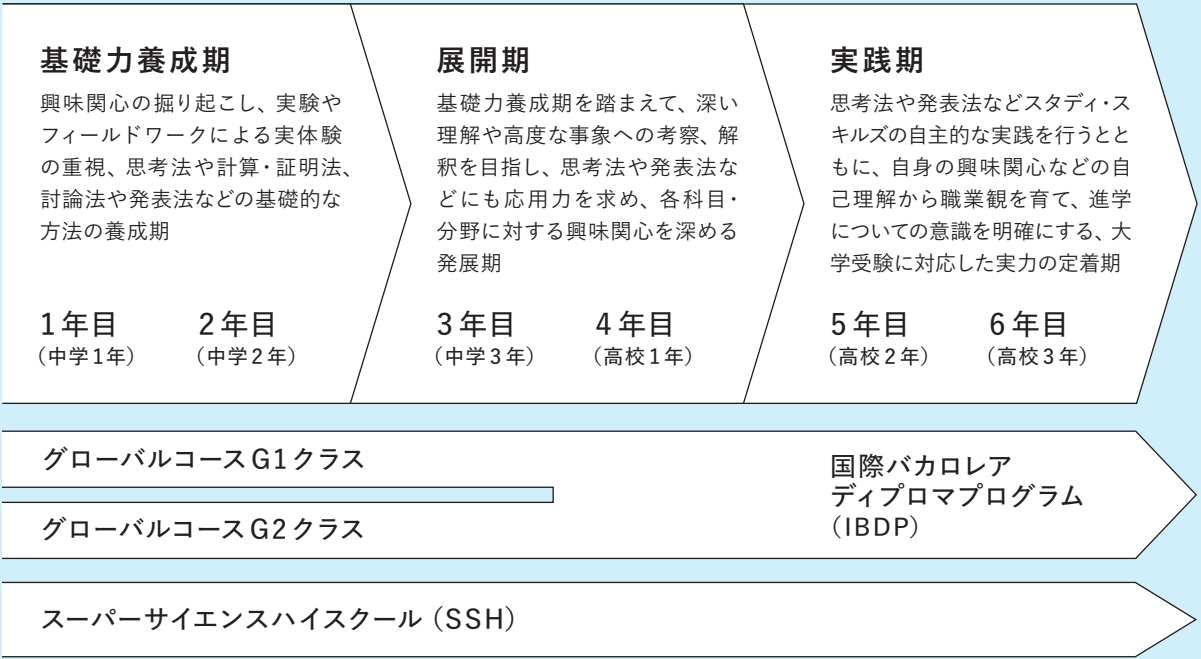
振り返る

茗溪学園の生徒は、自分自身の学習や経験についてしっかりと振り返ることができます。自分の長所と短所を客観的に見つめ直し、学びと成長につなげていくことができます。

茗溪学園の 特色ある教育プログラム

茗溪学園 6 年間の学びのフェーズ

茗溪学園では、中学・高校の6年間を一体的にとらえ、大きく3つの期間に分けて段階的に学びを進化させていきます。



茗溪学園の 6 年間で学ぶこと、身につくもの

6 年間の学びを支えるさまざまな教育プログラムを中心に、具体的な学園生活についてご紹介します。

国際教育

→ P19

Global Education

SSH
(スーパーサイエンスハイスクール)

→ P22

SSH

大学合格実績

→ P24

Destination of Graduates

クラブ活動実績

→ P25

Club Activities

茗溪寮生活

→ P26

Dormitory Life

在校生・卒業生が語る「個人課題研究」と「学園生活」

→ P28

Students and Graduates talk about Meikei

おもな年間行事

→ P30

School Events

施設案内

→ P31

Facilities

国際教育

帰国生支援室 | 留学支援

Global Education

帰国生や交換留学生が多いことに加え、世界に開かれた教育プログラムが多数用意され、日常的に国際感覚が磨かれていきます。

海外で育んだ個性を伸ばすための「帰国生支援室」を設置。 きめ細かな対応は、歴史と実績ある茗溪ならではの。

茗溪学園の帰国生の受け入れの歴史は古く、毎年世界中の国々から帰国した生徒たちが入学しています。

帰国生たちが在留先で身につけた学校生活に対する積極性や多様なものの見方が、茗溪学園のダイナミズムを形づくり、独自の校風を培う原動力となってきたといっても過言ではありません。

帰国生の個性が十分に生かされ、より充実した学園生活を送るための環境を備えるため、茗溪学園では「帰国生

支援室」を設け、つねに積極的かつきめ細かな支援を実現する体制を整えています。

具体的には、国語特別クラスを少人数体制で実施したり、その他の科目についても学習支援や補習を用意。また、定期的なカウンセリングを行い、学習や生活上の問題が見つかったときには、生徒、教員、保護者の間で問題を共有し、解決に向かうよう努めています。

2017 年現在、茗溪学園の全校生徒

1,521 名のうち、帰国生（海外での就学歴が 1 年以上ある生徒）は約 240 名在籍し、在留先もアメリカやヨーロッパだけでなく、中東、アジア、中南米、北欧など 35 カ国に及びます。

世界各国の文化を体験した生徒たちが、それぞれの個性を存分に発揮しながら、躍動感あふれる茗溪での日々を送っています。

「留学制度」利用は、全国でもトップクラス。 生徒の心の準備を見極め、世界へと送り出す。

帰国生の多さに加え、交換留学生が随時学校を訪れるなど、茗溪学園には世界との交流が日常的にあります。そういった環境に身を置くことで、日本・海外という心理的な壁を容易に払拭できる土壌が、6 年間を通じてさまざまな場面で培われています。

より強く外国の文化や歴史に興味を抱いた生徒には、直接体験する機会を持ってもらうため、UWC、AFS、YFU、EIL などの、歴史を持った信頼のおける

留学プログラムを通じて、留学生として送り出す制度も整えています。

ただし、茗溪学園では、単に希望者を海外に多く送り出すということはありません。事前の校内選考を行い、なぜ留学を志望するのか、なぜその国に行きたいのか、動機を作文にまとめさせ、さらに面接を行って留学への心構え・準備がきちんと整っているかを確認します。この過程を経ることで、生徒が外国の文化の中で生活することの意義や

困難さを十分認識しているかどうかを見極めます。その覚悟が整って初めて、充実した留学生活が実現すると茗溪学園では考えているからです。

2016 年度までの留学制度利用者は、UWC53 名、YFU64 名、AFS72 名、ロータリー 27 名など合わせて 226 名となっており、UWC の利用者は全国の高校のなかでもトップとなっています。



国際バカロレア・ディプロマプログラムコース



茨城県で初の国際バカロレア・ディプロマプログラム（IBDP）認定校に。
今年度からプログラムを開始しています。

茗溪学園は、2016年7月20日に、国際的な大学入学資格が得られる「国際バカロレア・ディプロマプログラム」（以下IBDP）の認定校となりました。IBDPとは、スイス・ジュネーブに本部を置く「国際バカロレア機構」（以下IB）が認定する国際的教育プログラムです。IBDP認定を受けた高校としては、茨城県内では初、全国では14校目となります。

茗溪学園と国際バカロレアの親和性

茗溪学園はIB教育の先駆的存在であるUnited World College(UWC)に、これまで50名を超える生徒を奨学留学生として送り出してきました(19ページを参照ください)。その経験からもIB教育と茗溪学園の教育の親和性の高さはかねてから認識されていました。探究型のプログラム、科目横断型の行事やプロジェクト、「個人課題研究」などがその一例です。

今年度からは、日本の教育と茗溪の教育、そしてIBの教育のそれぞれの長所を融合するという新たな挑戦に向けて、自らを変えたいと望む挑戦者の気概を持つ生徒とともに進んでいきます。

ディプロマプログラム

IBには生徒の年齢に応じた4種類のプログラムがありますが、そのうちディプロマプログラム（DP）は、16～19歳

の大学入学前の生徒を対象とした、幅広い分野を学習する2年間のプログラムです。知識豊かで探究心に富み、思いやりと共感する力のある人間を育成することを目的としています。また、多様な文化の理解と開かれた心の育成に力を入れており、さまざまな視点を尊重し、評価するために必要な態度を育むことを目指しています。

一部を日本語で行う「日本語DP」

IBDPは、原則として授業を英語で実施することになっていましたが、2013年以降、英語を中心とした授業・科目に加え、国語や歴史など一部を日本語で実施できる「日本語DP」が導入されています。茗溪学園は、この「日本語DP」の認定を受けています。日本語DP校としては国内5校目の認定となります。

IBDPコースでは、高校1年次には、日本の高校教育課程を中心に学び、その後の2年間で、国語、数学、課題論文

などIBDPの専門カリキュラムを修了し、最終試験に合格することで、日本の高校卒業資格とともに、世界100カ国以上、2万校を超える大学入学資格や受験資格を得ることができます。

募集定員は、20名(最大25名)を予定しています。

IBDPコースで学ぶためには

茗溪学園IBDPコース受講生の選抜は、中学2年後期と中学3年前期の国語・数学・英語の通知表の評定及び提出物の提出状況なども考慮に入れた上で、基準を満たした生徒を対象に英語によるテストと、IB教育への理解と意欲を確認する本人面接、保護者同伴面接などを経て、決定します。そのほか、高校新入生からの選抜も実施します。

茗溪学園では、将来IBDPコースに進む意欲を持つ生徒のために、中学グローバルコース（G1クラス、G2クラス）も開設しています（21ページを参照ください）。

中学グローバルコース

国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) コース受講を目指す者を対象にした、中学生からのグローバルコースも開設。

茗溪学園では、2015年度より新しく「グローバルコース」を開設しました。

グローバルコースは、高い英語力を維持発展させることを希望する者、または高等学校での国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) に関心があり、その修得に意欲のある者を対象とします (国際バカロレア・ディプロマプログラムについては20ページを参照ください)。

このコースの生徒は通常の学級に在籍しますが、国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) 受講も視野に入れ、中学校3年間の英語授業は「特別クラス」(週6時間の外国人教員による授業及

び週1時間の日本人教員による授業)を受講します。

この英語特別クラスは、2つのクラスに分かれます。

G1クラス：英検2級程度以上の英語力がある生徒対象

G2クラス：英検3級～準2級程度の
英語力がある生徒対象

「グローバルコースAO入試」を実施

上記グローバルコース開設に伴い、グローバルコースAO入試を実施します。グローバルコースAO入試で求められる英語力の目安は、「英検2級」程度です。

AO入試で合格した場合は、G1クラスを受講することが確約されます。

この入試は「専願」入試、「併願」入試の2種類があります。試験科目は、専願・併願ともに、英語エッセイテスト(50分)、英語による面接を実施します。

なお、AO入試以外の入試でグローバルコースの受講を希望する場合は、願書出願の際に「グローバルコース」欄に希望するコースを明記してください。AO入試以外での合格者には、「入学前オリエンテーション」(2月18日)の際に、英語力試験を実施し、英語特別クラス受講者を決定します。



国際的な研究活動を視野に入れ、
英語を使った発表や筑波大学・研究機関との連携など
独自のプログラムを開発しながら、
実験や観察、フィールドワークを中心に
論理的思考力や探究能力を身につけていきます。

最先端の理数教育を行う SSH(スーパーサイエンスハイスクール)

SSHとは、未来を担う科学技術系の
人材を育てることをねらいとした、文部
科学省の取り組みです。「科学への夢」
や「科学を楽しむところ」を育み、生徒
の個性と能力を一層伸ばしていくこと
を目指しています。SSHに指定された
中学校・高等学校は、文部科学省や関
係する機関の支援を受けながら、理数
系教育の充実をはかります。

茗溪学園は、2011年春にSSH指
定校になり、2016年まで5年間をかけ
て、科学技術にまつわるさまざまなイ
ベントやカリキュラムを実施してきました



た(第1期)。2017年に第2期の指定を
受け、「世界に提案できる、探究力育
成を目指した茗溪学園式中高一貫カリ
キュラムの開発」を研究開発課題とし
て、新たな取り組みを開始しています。
対象者は、中学1年から高校2年全員、
高校3年の理系選択者、科学部(物理
班、化学班、生物班、地質班、天文班、無
線工学班、数学班)、コンピュータシス
テム研究会、活動によっては高校2年・3
年の全員、中学生・高校生の希望者と、
中学高校一貫教育校ならではの規模で
実施しています。

国内外のさまざまな研究施設や実地におもむき、 実験や調査研究、研究発表会を実施。



茗溪学園でのSSHの具体的な活動
内容としては、英語によるプレゼンテー
ションへの取り組みを海外の学校と共
同で行うプログラムや、海外の研究施
設への訪問、サマースタディゾーンや
ウィンタースタディゾーンにおける出張
講義や実験プログラム、屋久島巡検や
オーバーナイトスタディなどの実地調査、

筑波大学で行っているSS研究発表会
などを実施しています。

[これまでの主な活動一覧]

- ・SS数学Ⅰ(中1)
- ・SS数学Ⅲ/SSデータ解析(中3)
- ・生命倫理/科学倫理(中3)
- ・サマースタディゾーン活動/SS
Camp研究所見学/Show&Explain
/SS Camp科学体験講座/SS研究
中間発表会
- ・筑波山巡検(中2)
- ・数学甲子園本選(4名出場)
- ・日本生物学オリンピック予選(4名出場)
- ・地学オリンピック国内予選(11名出場)
- ・数学オリンピック(4名出場)
- ・SS Geo Tour 屋久島研修(12名参加)
- ・Science Workshop(米軍基地内
学校との共同研究体験)(23名参加)
- ・SS Overnight Study「天体写真講

- 座」花立自然公園(26名参加)
- ・科学英語上級 講師:筑波大学 メ
イヤーズ先生(5名参加)
- ・科学倫理 水俣巡検(3名参加)
- ・科学倫理ワークショップ 筑波大学
鬼界先生(14名参加)
- ・分子遺伝学実習
- ・International Survey Tour スイス
CERN(6名参加)
- ・International Survey Tour 米国
デスバレー・ジョンソンスペースセン
ター(8名参加)
- ・Presentation with Overseas
Fellowship 中国上海(3名参加)
- ・クロスカルチュラルトーク JICAより
研修生・留学生を招聘
- ・国立環境研究所公開シンポジウムに
パネリストとして参加(3名参加)
- ・SS Medical Seminar 移植医療講
座(11名参加)

2期目を迎えて、さらに茗溪学園ならではの 独自性を生かした取り組みを強化。

第2期SSHとしては、国際バカロレ
ア(以下IB)指定校である茗溪学園とし
て、新しい日本式グローバル教育を開発、
実践することを目標に掲げています。

高いレベルの理数プログラムを推し進
めながら、同時に、

- ・歴史的・文化的な視点を持つ
- ・国際的な視野でものごとを考える
- ・未知の課題に挑戦し解決する意欲と
能力を高める

・生涯を通じて学び続けることができる
以上をテーマとしています。具体的には
下記の目標に沿って学習を進めます。

中高一貫のメリットを生かした 探究力育成カリキュラム

- ・高校2年次必修科目「個人課題研究」
を探究活動の集大成として位置づける
- ・個人課題研究に向け、中学1年から
探究スキルの段階的な習得を目指す
- ・「問題発見力」、「協働で取り組む力」
「論理的思考力」「表現力」「多面的に
分析する力」を重点的に高める
- ・高校1年では、研究入門ガイダンス
を経て、夏休みなどを利用して全員が
「ミニ研」に取り組む

ハイレベルかつ主体的な学びを 実施する理数カリキュラム

- ・高校2年、3年で「数学探究Ⅰ・Ⅱ」「物

理探究Ⅰ・Ⅱ」、「化学探究Ⅰ・Ⅱ」「生
物探究Ⅰ・Ⅱ」を設置する

- ・ハイレベルかつ双方向・協働型の学習
で探究活動を重視した活動を行う
- ・IBの教育を意識するとともに、AP・
SATの研究開発も合わせて行う
- ・高校3年でさらなる探究心を有する生
徒を対象に課題研究を実施する

深い思考につながる クロスカリキュラム

- ・全学年、全教科を対象に実施する
- ・ひとつの事象を多面的な角度から見
つめられるようにする
- ・知的好奇心の喚起を狙う
- ・問題発見、問題解決の場面を経験さ
せる
- ・教師の教科観、指導観の変容を促進
し、教師自身が全体的・包括的な視
点で学びを捉えられるようにする



世界を舞台にしたコンテストへの 出場など、着実な成果に結実。

SSHの各活動は、学会での発表や、
国内はもとより世界的なコンテストでの
発表などの成果に結びついています。

[これまでの主な実績]

- ・高校生科学技術チャレンジ(JSEC)
において「審査委員奨励賞」を受賞
(高3男子)。
- ・同生徒は2014年5月、米国で開催
されたIntel ISEF(国際学生科学技術
フェア)に派遣され、研究成果を発表。
- ・SSH生徒研究発表会において、「和
算を現代数学から見る」というテーマ

でポスター発表を実施(高3男子)。
・同生徒は、2014年8月に茨城県つく
ば市で開催された特定非営利法人数
理の翼主催「第35回数理の翼 夏季
セミナー」に選拔され、発表を行う。



- ・「数学甲子園」予選を勝ち抜き、本選
に出場(高3男子4名)。
- ・「第6回日本地学オリンピック大会」
予選を勝ち抜き、本選に出場(高3女
子1名・高2男子1名)。
- ・SS研究「電動カメラライダーの製
作」が、足利工業大学主催「未来を拓
く技術・アイデアコンテスト2014」有
線制御部門において「最優秀賞」を
受賞(高2男子)。
- ・「根の触覚」の研究が、第60回日本
学生科学賞中央審査優秀賞ほか多数
の賞を受賞(高1男子4名)

さまざまな国や地域から集まってきた仲間との
規律ある共同生活が、一生涯の絆をもたらします。

携帯、マンガ、テレビなしの決して便利とはいえない環境が、 生涯忘れられない貴重な絆や体験を育む。

茗溪学園の寮生活は、規則により生活の時間が決められています。

寮内では携帯電話やマンガは禁止され、テレビ也没有。不自由ともいえる寮生活ですが、工夫とお互いの協力によって充実したものへと変わっていきます。

6年間の寮生活が、寝食をともにする仲間たちとのかけがえのない絆や、自分を見つめなおす視点、自立した生活力をもたらします。

おもな施設・設備

部屋——2・3人部屋

フロア——20名前後の寮生を専門職員の1家族が住み込みで指導（この基本単位をフロアと呼んでいます）

施設——食堂（完全給食）、浴場完備

設備——給湯器、ウォータークーラー、ドライヤー、アイロン、冷蔵庫、パソコン、FAXなどをフロアに1～数台ずつ完備



朝は6時15分に起床し、フロアごとに掃除や朝の作業。 夜は18時が門限。夕食・入浴後は、「沈黙の時間」として個人勉強。

朝の過ごし方

起床時間は中学・高校ともに6時15分です。点呼をして外の空気を吸って目を覚まします。点呼のあとはフロアごとに共用部分の掃除や朝の作業（草刈りや落ち葉掃きなど）の活動をしします。

フロアごとの活動が終わると、朝食をとってから、登校の準備をします。それぞれに身支度や洗濯、授業の予習や課題などを済ませます。

放課後・夜の過ごし方①

寮生は通学時間がないので、部活にも学習にも全力で取り組むことができます。また、門限の18時までは、近隣のスーパーやドラッグストアなどに買い物に行くこともできます。

習いごとに通うことは制限されていますが、学校の「音楽教室」を有料で受講することができます。ピアノ、バイオリン、フルート、ギター、声楽などを専門の先生に教わることができます。練習には寮の防音室を使用できます。

放課後・夜の過ごし方②

土曜日以外は、毎日19時30分から「沈黙の時間」として、中学生は2時間、高校生は3時間、その名の通り静かに個人勉強に励みます。集中した勉強時間が取れることは、寮生にとって、学力をつけるうえで大きな強みとなります。

寮では塾に通うことが制限されていますが、茗溪を卒業した筑波大生・大学院生が週に数回、中学生にはどの教科も無料で、高校生は希望者に有料で、数学と英語の指導を行います。勉強の

質問のほか、定期テストや進路の相談にも、身近な先輩としてアドバイスをしてくれます。



通学生も「短期入寮」を体験。入寮中は座禅や寒稽古など通常の授業では得られない価値ある体験を、全員で。

精神的、生活的交流を深め、規律ある生活を学ぶ目的で、通学生も一定期間全員入寮します。この「短期入寮」中に、普段の授業では得られない総合的・体験的学習の場として学年行事や学級行事が計画されます。

中学1年生は、入学1ヵ月後に短期入寮し、学習習慣をつける目的で、寮生と同様に19時30分より「沈黙の時間」（各自が勉強する時間）を体験、そのほかグループ学習会、交友関係を深め

るためのスポーツ大会などを行います。

中学3年での短期入寮では、12月の国内研修旅行に向けて、座禅体験、研修旅行活動準備などを実施します。

高校2年の2月に行われる短期入寮では、大学入試に向けて心身ともに鍛えることを目的に寒稽古を体験します。男子はラグビー、女子は剣道を早朝から行い、気力体力を養います。



「短期入寮」

中学1年生（5月）

沈黙の時間体験／スポーツ大会

中学3年生（10月）

座禅体験／研修旅行下調べ

高校2年生（2月）

寒稽古／実寒ラグビー

日常的な「お茶会」「ビデオ会」から「寮祭」「クリスマス会」などの一大イベントまで、寮独自の楽しい行事が目白押し！

茗溪学園は行事が多いことで知られますが、寮独自の行事もたくさんあります。入寮したてのころ、親睦を深めるために行う「筑波山ハイキング」、学年

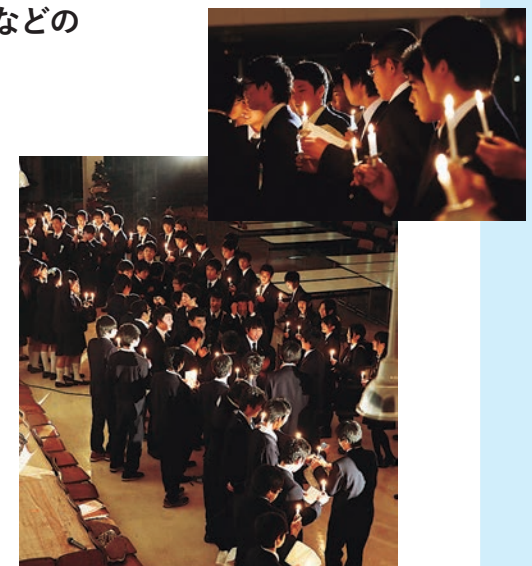
の先生と寮生でおやつを食べながら語りあう「お茶会」、寮生男女全員で親睦を深める「スポーツ大会（バレーボールやバドミントンなど）、希望の多い映画を鑑賞する「ビデオ会」などなど。

なかでも、寮生が一番楽しみにしているの

が「寮祭」と「クリスマス会」です。

「寮祭」は、7月初旬に行われる行事で、夕方から学校の中庭でバーベキューや花火をして夏を満喫します。また、有志によるダンスやコント、演劇などのパフォーマンスもあり、毎年学年の仲間たちと試行錯誤しながら練習した成果を発表します。

「クリスマス会」は、退寮する6年生（高校3年生）を送り出すという意味合いがあり、6年生への感謝の気持ちを込めて、有志がパフォーマンスを披露したり、特別な食事やビンゴなどを楽しんだりします。後輩からの送辞、6年生からの答辞、そして最後のキャンドルサービス



——寮生活を通じて頼もしく成長した6年生との別れの時間は、毎年大きな感動に包まれます。

一部の教職員家族も同じ寮内で生活。 「ハウスマスター」「ハウスマザー」として、きめ細かに毎日を指導。

茗溪学園の寮では、一部の教職員も家族とともに寮に住み、「ハウスマスター」として担当フロアの生徒たちの生活指導や健康管理など、生活のあらゆる面においてきめ細かな助言と指導にあたります。

また、教職員の妻は「ハウスマザー」と

と呼ばれ、文字通り寮での「母親」的存在として、担当フロアの生徒たちの健康状態や精神状態をより細やかな視点で観察・管理し、時には学園の担任と連携を取りながら、生徒一人ひとりが健康な生活を送れるように細心の心配りをします。



在校生・卒業生が語る 「個人課題研究」と「学園生活」

在校生

好きなことを好きなだけ
調べられる幸せな環境がここに。



高校3年
内田 紬斗
(37回生)

茗溪学園では、高校2年になると全員が、自分で選んだテーマを1年間かけて研究し、その成果を発表する「個人課題研究」に取り組みます。私は中学1年から写真部に所属しており、さらに、高校1年の時に図書館司書の先生による「図書館情報学概論」の探究講座を受けたことが契機となり、メディアについての関心を深めていました。そこで「個人課題研究」には、「生徒の視点から茗溪学園の良さを表現したパンフレットを作る」というテーマで取り組むことにしました。

1年間の研究はそれは楽しいものでした。自分の好きなことを、好きなだけ調べることができる茗溪学園の環境をととても幸せに感じました。編集者を志していた私ですが、現在は、研究を進める中で知った他の職業にも興味を持ち始めています。「個人課題研究」は、自分の興味のある分野の知識を深めるとともに、新たな世界への展望を開くよい機会になります。後輩の皆さんにも、ぜひ全力で研究に取り組み、自分たちの世界をより広く、より深いものにしてほしいと思います。

さまざまなことに挑戦する機会が
たくさん用意されている学校。



高校3年
中田 愛梨
(37回生)

私は幼少期を米国で過ごしました。茗溪学園に入学してさまざまなプログラムに参加する中で国際協力に興味を持ち、もう一度海外に出てみたいと思うようになり、高校1年の秋からEILのプログラムを利用して英国とアイルランドに留学しました。この留学中の実体験が動機となり、高校2年の「個人課題研究」には、「国際社会における日本の地位確立に向けて～効果的なPR方法についての考察～」というテーマで取り組みました。幸いにも私の研究は、個人課題研究発表会での口頭発表に選ばれ、外部の「SGHフォーラム」でも発表機会を得ることができ、とても貴重な経験をすることができました。

留学や「個人課題研究」を通じて、私はそれまで気づいていなかった日本の魅力や国際的な立場について、以前よりも広い視野で捉えるようになりました。同時に、自分の知識不足を痛感し、今後もさらに学びを深めていきたいと感じています。将来は、国家間の橋渡しができるような仕事に就いて活躍するのが今の私の目標です。皆さんもぜひ、茗溪学園でいろいろなことに積極的に挑戦し、チャンスをつかんでください。

卒業生

勉強することのおもしろさを見
つけることができた。



東京大学在学中
中越 亜理紗
(33回生)

私は現在、東京大学駒場キャンパスに通い教養課程で学んでいます。3年生からは本郷の文学部に進む予定です。高校生活をふり返るとき、いつも茗溪で本当に良かったと感じます。大好きな英文学について探究できた高校2年の「個人課題研究」、EECクラスでのレベルの高い英語の授業、オーストラリアへの海外研修旅行、臨海訓練での遠泳や剣道の寒稽古など、ほかの学校とは比較にならないほどの幅広い経験ができました。

茗溪では、勉強のおもしろさを見つけ、好きになるように努力することの大切さを学ぶことができたと思います。他人のアドバイスを参考にしつつも、自分に何が合うかは、自分自身で試行錯誤して見つけなければならないと思います。家族はもちろん、先生方、友人など、自分を支えてくれる人々への感謝の気持ちを抱きながら、目標に向かってがんばること、そのことを、茗溪での6年間で教えてくれたと思っています。

海外へ羽ばたくための土台を
つくってくれた自慢の母校。



UWC USA (2011年卒)／米国マサ
チューセッツ工科大学生物工学科
卒業／UCサンフランシスコ・UC
バークレー連携大学院在学中
宮崎 光 (30回生)

茗溪での生活は私にたくさんの出会いと機会を与えてくれました。キャンプ、部活動、文化祭などのさまざまな活動を皆で作上げる、その一体感や喜びが今も私の心に残っています。入学当初、私は自分が海外にいくとは想像したこともありませんでした。が、外国人の先生、海外帰国生の友人や留学帰国生の先輩がいる茗溪の環境の中で、英語教育、文化交流を体験し、さまざまな留学プログラムについての情報を得るうちに、自然と留学を身近なものに感じるようになりました。茗溪は私に世界への扉を開けてくれたのです。

UWCやその後進学したMITで、世界一流の先生のもと、世界各地から集まった志の高い才能にあふれる学生とともに切磋琢磨して学ぶことは、大変貴重で刺激的な経験でした。現在は、世界のより多くの人の生活を医療研究、治療開発の面から支えていきたいという思いから、生物工学を学んでいます。茗溪は、海外へ羽ばたくための私の土台を作ってくれた自慢の母校です。

世界を舞台にがんばる仲間は、
財産であり、今もよい刺激に。



弁護士 米国在住
三輪 咲絵
(20回生)

茗溪を卒業して十数年。現在は日本を離れ、アメリカで生活をしています。昨年まで、シカゴにあるノースウエスタン大学ロースクールで、米国弁護士資格取得のための勉強および研修を行っていました。

私は、小学校時代をアメリカで過ごし、帰国後も英語を伸ばしたいという思いがあって茗溪学園に進学しました。茗溪では、授業だけでなく、「個人課題研究」を英語で書いたり、大学などが主催するスピーチコンテストに応募したりと、英語をさらに伸ばすためのさまざまな経験を積むことができました。

それらの経験を積んだおかげで、今も米国で不自由することなく生活し、法律関係の仕事に携わることができています。

また、茗溪で出会い、ともに学んだ素晴らしい同級生たちの存在も、私の大きな財産となっています。

先日、同級生のひとりにアメリカで再会しました。自分と同じように世界を舞台にがんばっている同級生がいるということも、いい刺激となっています。

厳しい状況の中でも目標を
やり遂げたことが自信に。



農林水産省勤務
佐々木 優
(24回生)

私は現在、農水省の出先機関で農業用水路の工事現場監督をしています。農業分野で人の役に立つ仕事がしたいと思い現職を選びましたが、そのきっかけは茗溪学園で学んだことにあります。

高校の社会科の授業で、世界には食料不足に苦しむ人々がたくさんいることを知り、そのような人々の役に立ちたいと思うようになりました。

高校2年で取り組んだ「個人課題研究」ではその実現に近づくため、食料生産が困難な乾燥地での農業技術について研究しました。茗溪卒業後に進んだ大学・大学院でも同分野の研究を深めて、現在の職に就いています。

中学・高校を通じて所属したテニス部での経験や高校1年のときの臨海訓練など、厳しい状況・環境の中でも目標に向かって進み、やり遂げたことが、今でも私の中で自信につながっています。

そして、もちろん、それらのことは素晴らしい思い出となって、今も私の心の中で輝き続けています。

現在、茗溪学園に在学中の生徒や
大学や社会で夢の実現に向けて邁進している卒業生が、
「個人課題研究」を始めとする茗溪ならではの学習や
学園生活の特徴について語ってくれました。

茗溪で培った失敗を恐れない
強い心が、今も自分の支えに。



刀剣作家
宮下 輝 (刀匠名:正吉)
(22回生)

日本美術刀剣保存協会主催
「新作名刀展」2013年新人賞・努力賞受賞
2014年努力賞受賞、2015年努力賞受賞

私は幼いころから日本の伝統技術、中でも日本の刀に惹かれていました。茗溪の「個人課題研究」でも取り組みましたが、当時は取り組み方法がわかりませんでした。大学に進むため群馬に行ったところ、偶然にも近くに刀鍛冶の人間国宝の方がいらして、そこで本物の日本刀を見る機会を得て、その方のご紹介で宮入法廣師に弟子入りし、約7年間修業しました。その後は、つくばに戻り鍛刀場を開いています。

日本刀は優れた「美術品」だと思います。装飾のついた海外の刀剣と異なり、「鉄」だけで美しさを表現できるのは日本独自のすばらしい美的感覚です。刀鍛冶の仕事の醍醐味は、自分が思い描いたものを形にしていけるところ。苦労はありますが、茗溪で学んだ失敗を恐れない強い心をつねに持ち、納得できるものを探求し続けたいと思います。

自分の長所をそのまま伸ばし、
英語力も向上させられる環境。



NHK国際放送局 キャスター
鈴木 美貴子
(24回生)

「自分らしさ」を大切に、それぞれの才能をそのまま伸ばせる学校、それが茗溪です。中学生の時に米国から編入した私は、どちらかというと異色な存在でした。そんな私でも仲間を見つけられたのは、それぞれの個性を発揮できる環境があったからだと思います。ユニークな学校カリキュラムの中で、勉強以外にも、運動や芸術などあらゆる分野で活躍する同級生から刺激を受けて過ごしました。

また、帰国子女の私にとって、茗溪には英語力をさらに向上させることができる環境がありました。英語スピーチコンテストでプレゼンテーション力を高めたり、「個人課題研究」で日本の小説を英語翻訳する研究等を通じて、自信を深めることができました。

上智大学に進み、卒業後はNHK仙台放送局で3年間キャスターを務め、現在はNHK国際放送局で「英語で伝える」仕事に携わっています。ありのままの自分のカラーを伸ばせた学園生活とそれぞれの長所を尊敬し合える仲間が、いまの自分につながっています。

おもな年間行事 *School Events*

茗溪アイデンティティを確実に培うための、
ユニークで多彩な活動が目白押しです。

4

入学式
研究学園都市施設見学
クラブオリエンテーション

寮生ハイキング



5

中1短期入寮
生徒総会
オープンキャンパス

父母会総会
教育実習(3週間)



6

プール開き
桐創祭(文化祭)

芸術鑑賞
サマースタディゾーン



7

芸術鑑賞
サマースタディゾーン

受験補習(前期)
水泳特別指導



8

受験補習(後期)

受験補習(後期)



9

中1里美キャンプ
中2筑波山キャンプ

中1里美キャンプ
中2筑波山キャンプ



10

高1巡検
高2海外研修旅行
中3短期入寮

理科巡検
生徒会役員選挙



11

中2英語劇
生徒総会
茗溪学園美術展

中2英語劇
生徒総会
茗溪学園美術展



12

中1英語劇
中3国内研修旅行

ウィンタースタディゾーン
北風祭(球技大会)



1

かるた大会／書き初め
凧あげ大会
中学校・高等学校入学試験



2

中1・中2合唱コンクール
中3クロスカルチャルトーク
高2短期入寮／寒稽古

個人課題研究SS研究発表会



3

校技大会
六送会
卒業式



施設案内



中学棟



閲覧室



セミナー室



帰国生英語クラス(101教室)



中学棟(左)と高校棟(右)



図書館



コンピュータ室



生物実験室

特色ある茗溪の教育プログラムを
充実した施設・設備が支えています。



校門(正門)・バスロータリー付近



アゴラ棟



寮(東棟)



第1食堂



ラグビーグラウンド(人工芝)



第1体育館



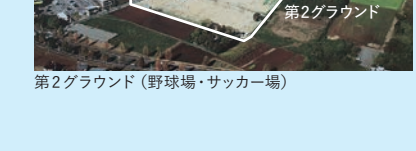
第2体育館



屋外プール



茗溪学園 第2グラウンド



第2グラウンド(野球場・サッカー場)



*第2グラウンド(野球場およびサッカー場)は、上図敷地から南に約500メートルのところにあります。

校章のデザインについて



校章は学園設立以来「五三の桐葉型」ですが、2015年4月から筑波大学の校章と同一のデザインになり、筑波大学同窓会によって設立されたという本校の出自や筑波大学との関係性を明確に表すものとなりました。色は若々しい印象のブルーとし、呼称を「Meikei Blue」と定めています。

校名ロゴについて



学園の名は、設立主体である筑波大学同窓会「茗溪会」にちなんでいます。茗溪とは、筑波大学の前身、東京師範学校の誕生の地である東京都お茶の水付近を指す雅称（風流な呼び名）です。2015年4月、学園の教育の大きな特徴である国際性を明快に表現するため、新たに英文表記のロゴを定めました。

スクールモットーについて

**Meikei—
Making the Difference**

茗溪学園の教育方針を端的に示すスクールモットーを2015年4月に制定しました。茗溪学園では、生徒一人ひとりの個性を尊重しながら、その素質と能力を発展させる独自の教育プログラムを行っています。そのプログラムによってもたらされる、他では体験できない特別な6年間を簡潔に表現しています。

学校見学・オープンキャンパス 日程

オープンキャンパス	5月27日㊥	小学6年生対象	*要予約
海外生・帰国生説明会	6月24日㊥	海外生・帰国生対象	*要予約
高校学園説明会	7月 8日㊥	中学生対象	*要予約
高校入試説明会	9月 2日㊥	中学生対象	*要予約
学園説明会 (中学高校入試説明会)	10月21日㊥	主に父母向け	*要予約
茗溪学園文化祭	6月10日㊥・11日㊤	10:00～16:30	*予約不要
吹奏楽部 定期演奏会	7月28日㊤	開場 16:30 開演 17:00	*予約不要
茗溪学園美術展 (会場:つくば美術館)	11月 7日㊤～11月12日㊤	9:30～17:00 (最終日は14:00)	*予約不要

国際バカロレア・ディプロマプログラム認定校



スーパーサイエンスハイスクール指定校



スーパーグローバルハイスクール・アソシエイト指定校



茗溪学園中学校高等学校

お問い合わせは広報企画部へ

▶ TEL.029-851-6611

▶ FAX.029-851-5455

▶ E-mail [説明会・学校イベント]
kouhou@meikei.ac.jp

▶ E-mail [入試問い合わせ・学校見学等]
entry@meikei.ac.jp

▶ WEB <http://www.meikei.ac.jp>

交通アクセス 〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前1-1

